

## 持続可能な開発のための教育(ESD)と ユネスコスクール



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization

National Coordination  
Japan



UNESCO  
Associated  
Schools

### 持続可能な開発のための教育(ESD)とは？

(ESD = Education for Sustainable Development)

ESDは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

環境破壊、貧困、テロ、気候変動、自然災害など地球規模の課題が増大し複雑化する中、**持続可能な社会の構築**に向けた取組が、世界全体でますます重要となっています。

ESDは、一人ひとりが持続可能な社会の構築に必要な考え方や行動を学び、地球規模の課題を自分のこととしてとらえ、その解決に向けて自分から行動を起こす力を身につけることを目指します。

ESDは、ユネスコ(UNESCO:国際連合教育科学文化機関)が中心となり、世界中で取り組まれています。

#### ESDの概念図

ESDの学習や活動で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものである必要はありません。

環境、国際理解、防災などをテーマとしている個別の学習を、ESDの視点で包含し再構築することにより、より地域の課題と結びつけた学際的で実践的な学びへと発展することができます。



## ESDにより育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)
- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上



## 持続可能な開発のための教育(ESD)に関する国際的な動き

### ▶「国連ESDの10年(UNDESD)」

日本が提唱し、2002年の国連総会において、2005年～2014年までの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年(国連ESDの10年、DESD)」とすることが決議されました。この間、ユネスコを主導機関として、国際的に様々な取組が実施されました。

### ▶「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」

共催:ユネスコ(UNESCO:国際連合教育科学文化機関)、日本政府  
世界153の国・地域から76名の閣僚級を含む政府関係者、国連機関、研究者、学校関係者、各種ステークホルダーのESD実践者等およそ3,000名が参加し、これまでの「国連ESDの10年」を振り返り、今後のESD推進方策について話し合わせ、各種宣言が採択されました。

(1)閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合(愛知県名古屋市) 平成26年11月10日(月)～12日(水)

(2)ステークホルダーの主たる会合(岡山市)

- ①ユネスコスクール世界大会 平成26年11月5日(水)～8日(土)
- ②ユース・コンファレンス 平成26年11月7日(金)
- ③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議 平成26年11月4日(火)～7日(金)

#### ○世界会議において採択された宣言

- ①「あいち・なごや宣言」
- ②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」(ユネスコスクール岡山宣言) 他



### ▶「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」

世界会議では、「国連ESDの10年」の後継プログラムである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の開始が正式に発表されました。GAPは、今後のESDの推進における優先行動分野として、①政策的支援、②機関包括型アプローチ、③教育者の育成、④ユース、⑤地域コミュニティに焦点を当てています。日本では、ESD関係省庁連絡会議において、平成28年3月に「我が国における「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画(ESD国内実施計画)」が策定され、本計画に沿って取組が進められています。  
(<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm>)

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 持続可能な開発目標(SDGs)

先進国を含む国際社会全体の開発目標(2030年を期限)として、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択されました。ESDを含む教育は目標4に位置付けられ、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」とされています。また、ESDは、持続可能な社会の創り手づくりを通じて、17の目標の達成に貢献するものです。

(参考)国際連合広報センター(SDGsについて)

[http://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

## ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示された**ユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校**であり、ユネスコが認定する学校です。

現在、世界180以上の国・地域で10,000校以上のユネスコスクールがあります。

日本国内の加盟校数は1,037校です(平成29年8月現在)。

◎ユネスコ憲章(抜粋)

第1条 目的及び任務

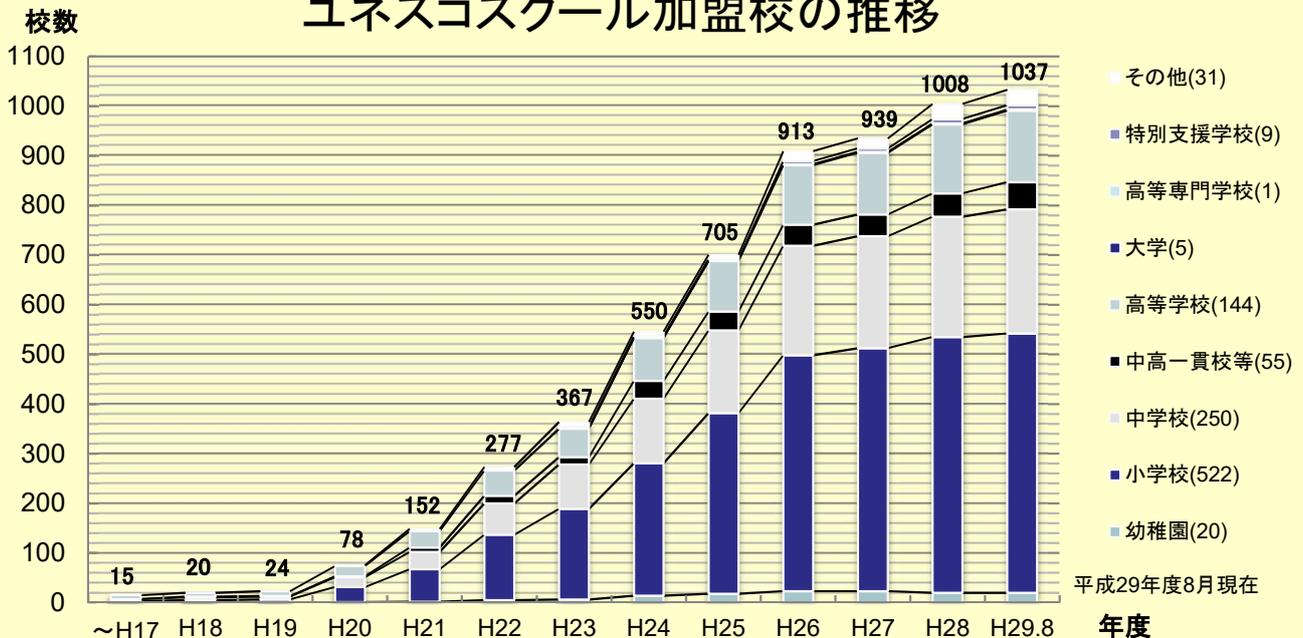
1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

## ユネスコスクールはESDの推進拠点です

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、**ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け**ています。ユネスコスクール加盟校数の増加を図るとともに、その質を確保するため、**ユネスコスクールガイドライン**を策定しました。

ESDの考え方は現行学習指導要領で示されている「生きる力」という理念に通ずるもので、平成29年3月に公示された新学習指導要領では、前文でこれからの学校には「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と規定しています。我が国の教育の振興に関する施策を定めた第2期教育振興基本計画においても、ESDを推進することが明記されています。

## ユネスコスクール加盟校の推移



## ユネスコスクールに対する支援

### ユネスコスクール事務局

ユネスコスクールの活動を支援するため、ユネスコスクール事務局を設置しています。

(平成29年度日本／ユネスコパートナーシップ事業によりユネスコ・アジア文化センター(ACCU)に委託)

### ユネスコスクール公式ウェブサイト

ユネスコスクール事務局が運営し、ESDの優良事例・教材・イベントの紹介などの情報を発信し、取組を支援するための各コンテンツを用意しています。

URL <http://www.unesco-school.mext.go.jp/>

### ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)

日本の特色ある取組として、ユネスコスクールの加盟申請手続や活動について助言・支援をしています。

URL <http://www.unesco-school.mext.go.jp/ASPUnivNet/>

加盟大学: 北海道教育大学釧路校、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、玉川大学教育学部、東海大学教養学部、金沢大学、岐阜大学、静岡大学教育学部、愛知教育大学、中部大学、三重大学、京都外国語大学、大阪府立大学、奈良教育大学、岡山大学、広島市立大学、広島大学大学院教育学研究科、福山市立大学、鳴門教育大学、福岡教育大学

# ユネスコスクールガイドライン

(平成24年8月20日 日本ユネスコ国内委員会)

※一部名称変更

## ユネスコスクールとして大切なこと

ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- ・国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- ・地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- ・校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- ・学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- ・必要に応じ、ASPUivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

## 持続可能な開発のための教育(ESD)推進拠点として大切なこと

ユネスコスクールがESD推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- ・ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- ・総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ・ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESDの理念の普及に努めること。

## ESD推進の手引(初版)

文部科学省では、学校現場において更にESDが浸透していくことを目標に、「ESD推進の手引」を作成しました。ESDについて知らなかった方もその重要性を理解し、授業に取り入れたいと思っていただけるよう、ポイントを簡潔に記載するとともに、QA形式で基礎的な事項をまとめています。

([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/other/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/14/1369326\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/09/14/1369326_01.pdf))

## ESD広報媒体



- 1) ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD)パンフレット
  - 2) ESD QUEST: ゲームのように楽しくESDを学べるストーリーブックです。
  - 3) ESDポータルサイト (<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/index.html>)
  - 4) 日本ユネスコ国内委員会ESDフェイスブック (<https://ja-jp.facebook.com/esdjpnatcom/>)
- ※広報冊子を御希望の方は下記までお問合せください。

## ■お問合せ先

文部科学省国際統括官付(日本ユネスコ国内委員会事務局)

TEL: 03-5253-4111

担当 ユネスコ振興推進係(内線2602)

FAX: 03-6734-3679 e-mail: [jpnatcom@mext.go.jp](mailto:jpnatcom@mext.go.jp)

2017年8月作成

